



府中市議会議員 須山たかし

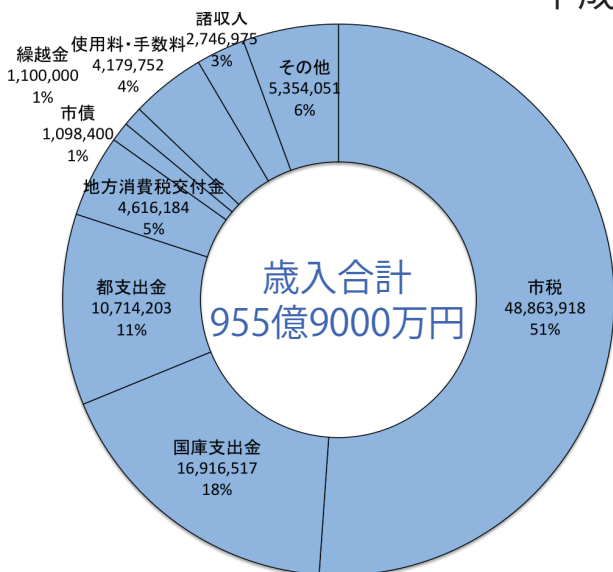
【発行】市民フォーラム
〒183-8703 東京都府中市宮西町2-24

平成30年度一般会計予算は955億9000万円です。

2月19日～3月15日の25日間の日程で府中市議会第1回定例会(3月議会)が開催され、平成30年度の予算が審議されました。

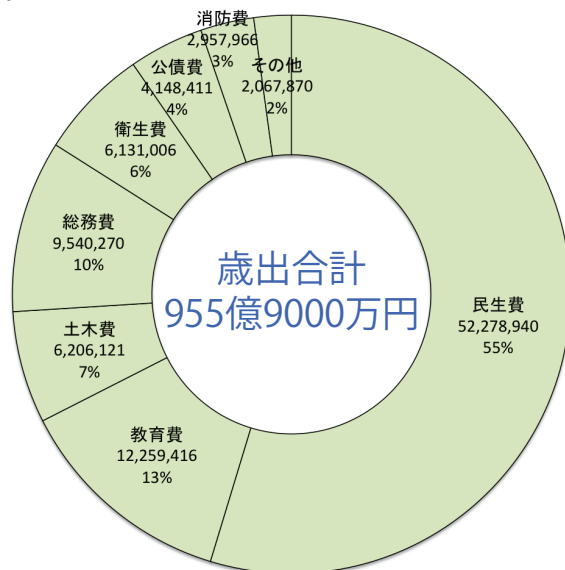
平成30年度一般会計予算

*グラフ単位:千円



歳入内訳	
市税	48,863,918
国庫支出金	16,916,517
都支出金	10,714,203
地方消費税交付金	4,616,184
市債	1,098,400
繰越金	1,100,000
使用料・手数料	4,179,752
諸収入	2,746,975
その他	5,354,051

歳入内訳	
民生費	52,278,940
教育費	12,259,416
土木費	6,206,121
総務費	9,540,270
衛生費	6,131,006
公債費	4,148,411
消防費	2,957,966
その他	2,067,870



平成30年度は「府中駅前再開発事業」や「新給食センター」などの事業が終わり、同時に地方消費税交付金の税制改正等の影響で6億円
の減収が見込まれる中でラグビー・ワールドカップやオリンピック・
パラリンピックに向けた事業や、「市民協働」をより進める施策をど
うするかが問われています。

また、小中学校でのタブレット端末等の導入や須山が訴えてきた
「ゴミ出しアプリ」の導入など、ICT化が進む予算となっております。
須山は今回、所属会派の「市民フォーラム」を代表して、総括質問
を行い、平成30年度予算案に賛成致しました。

「歳入減」への対応は？

A 当年度から景気の変動や制度改正の影響を小さくするため
財政調整基金の調整機能を拡充。同時に持続可能な行財政運
営を維持していくために歳入に見合った歳出を念頭に財政運
営、予算編成を行っていく。

平成30年度税制改正税制改正による影響は？

A 地方消費税交付金が都市部から地方へより多く配分する
よう、清算基準が見直され、約9億円の影響。

文京区の「子ども宅食」など、特定の事業に寄付を募る
「ガバメントクラウドファンディング」の評価は？

A 近年注目されている手法であるが、府中市では現在導入
予定はない。しかし、「府中ふるさと寄付金制度」の充実
につながる可能性もあるため、調査・研究に務めていく。

がん検診検討会議。新規事業として採用された経緯は？

A 都の「多摩メディカル・キャンパスの整備基本構想」で
がん検診センターと多摩総合医療センターを統合、多摩地
域の高度・先進的な医療の拠点化に伴い、がんの一次検診
を段階的に縮小・廃止が計画されている中、本市として今
後のがん検診について抜本的な見直しが求められている。
さらに、国のがん対策推進基本計画で、市町村は精度管理
の向上が求められ、専門的な見地が必要となったため。

須山たかしの主な質疑

八王子市がソーシャルインパクトボンド(SIB)を用いて
「大腸がん検診受診率向上事業」をはじめたが、評価は？

A SIBは社会問題の解決を目指し、民間から調達した資金
で行政機関が事業者に公的サービスを委託し、出資者には
成果に応じた利益還元が行われる仕組みで、国も導入推進。
八王子市の例は過去の医療情報と人工知能を活用し受診率
向上を目的とした取組。
SIBはまだ取組事例が少ないため本市では、まず先行事例、
特に近隣自治体の八王子市の状況を注視していく。

たかしの眼



「ガバメントクラウドファンディング」や「SIB」といった
取組はまだまだ先進的なものだということは理解している。
しかし、歳入が不足する中、財政調整基金の活用など工
夫した運営により、財政力指数などの数値は、良い状態の
府中市として、財政に余力のある今、色々と仕掛けていく
ことが重要だと考えます。また、こうした先進的な事業を
採用することでメディア等にも取り上げられ、市内外への府中市の
取組が発信され、府中市の魅力も上がると思われる。だからこそ、
感度を上げてこうした取り組みを採用することによって、税制改
正など様々な課題に対応していくべきだと考えます。
*その他、「まちのにぎわい」、「子ども政策担当」、「ICTの
さらなる活用」等の質問・要望を致しました。

基地等跡地対策特別委員会

●調布基地跡地に関して

調布飛行場の「航空機離着陸情報提供サービス」スタート。

「翌日の航空機離着陸予定回数」
「翌日の運用時間外航空機離着陸予定」
「航空機離着陸実績回数」

Facebookページにて毎日17時以降更新
<https://www.facebook.com/chofu.aerodrome/>
港湾局のホームページに、原則1週間分の実績を、翌週の月曜日に更新。
<http://www.kouwan.metro.tokyo.jp/>

●府中基地跡地に関して

・「府中基地跡地留保地活用検討プロジェクトチーム隣接道路空間検討作業部会」1月30日に開催。隣接する小金井街道の歩行者空間の拡幅を目指し、関係機関との協議を進めている。

・「府中基地跡地の利用計画策定に向けた市民ワークショップ」3月17日、18日に開催。市民の意見やアイデアを募り、一緒に考えるワークショップを開催。計41人が参加。市民からの意見は、検討協議会へ報告予定。

・「府中基地跡地留保地ニュース」3月31日発行し、各文化センターや府中市HPに配布・掲載。

インターン生から

●私は、須山さんのもとでインターンシップさせていただいている、國谷と申します。インターンシップでは、都庁・国会といった施設の見学や、議会傍聴、選挙の出陣式の応援など、色々な経験をさせていただきました。活動を通して政治について知識を付けることができ、それによって、自ら進んで政治について勉強するようになったと思います。

前の私もそうでしたが、今の日本には政治に無頓着な人がとても多いと思います。政治は私たちの生活に関わるとても重要なものです。そんな大事なものに興味を持っていない人が多いのは、国としてとても危険なことではないでしょうか。

私は、この状況を少しでもよくするため、このインターンシップの活動を活かし、皆に政治の重要性を伝えて行けたらと思います。

●自分はインターンで須山さんにお世話になっている宮澤と申します。インターン期間中は議会や委員会の傍聴・選挙応援のビラ配り等普段できない、もしくはやりにくいことを経験させて頂きました。それらの活動を通して様々な方と交流し多様な考え方に触れ、自分の世界が開けたような気がします。特に政治家という普段なかなか接触の機会のない方々との交流は政治の世界をより身近に感じると共に多くの考える機会を提供してくださり勉強になりました。よりよい社会を求めるのは国民の権利ですがその社会を形作っていくのは国民全員の義務と考えています。

今回の経験を糧によりよい社会について考えながら行動していけるようにしたいと思っています。



一般質問「カラーユニバーサルデザインに関して」

色盲、色弱などの「色覚異常」、最近では「色覚多様性」とも言われています。先天性の色覚異常の方は日本国内で、男性は20人に1人、女性は500人に1人の割合、計320万人いると見られており、カラーユニバーサルデザインの対応を進める必要があります。



府中市の広報や印刷物、HPや案内板といったものに関して、カラーユニバーサルデザイン対応は？

A高齢者や視覚及び色覚障害者など、色の識別が困難な方に対しても、見やすく、わかりやすい色使いとすることが求められているため、ユニバーサルデザインガイドラインを作成し、情報提供の際の文字、背景の色の選び方及び色の組み合わせなど配慮すべき留意点を示して周知している。



市内点字ブロックで路面と同系色で見づらいという声を聞か、考え方は？

A福祉のまちづくり条例(H21)の整備基準等に基づき、原則、黄色の視覚障害者誘導用点字ブロックを採用している。また、JIS規格(H13)において、点字ブロック等の突起の形状等を規定。しかし、それ以前に整備した道路は、さまざまなタイプが採用され、現在は規格外のものが混在している状況にある。当事者の方からの御意見や御要望を頂いた場合には、改善に努める。

平成30年第2回府中市議会定例会(6月議会)は
6月11日(月)開会予定です。

また、府中市議会では本会議のインターネット配信を行っております。下記URLからアクセスして下さい!

府中市議会HP <http://www.fuchu-city.stream.jfit.co.jp/>



ル・シーニュに関して、案内表示板が見づらいという声があるが、建設の際に市としてはどのような指導をしたか？

Aバリアフリー法及び東京都建築物バリアフリー条例に該当するため、建築確認申請の際に審査を受ける必要があるが、本市ではなく、民間の指定確認検査機関が行った。



今後、準公共的な施設が建設されていく上で、ユニバーサルデザインガイドラインの指導強化や、当事者の意見を反映させていく必要は？

Aガイドラインに沿った施設整備及び運営が行われるよう周知・啓発を図る。当事者の方からの意見の反映に関しては、地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画において、当事者参加・参画の仕組みづくりを施策として掲げており、引き続き関係課と調整し、意見反映のための取り組みを進めていく。

たかしの眼



私も色弱を持っており、人とは違う「見え方」をして生活してきました。色覚異常は自覚をただけでは見えない、わからないことには変わりありません。だからこそ、周囲の理解や社会でそれを補っていく合理的配慮という考え方が必要であると考えます。

この色覚異常は障害者差別解消法の対象ともなっています。だからこそ、しっかりと当事者の声を聞き、カラーユニバーサルデザインへの一層の理解と対応を進める必要があります。

*学校現場では色覚異常でも見やすい「色覚チョーク」の導入を市として呼びかけていることが質疑でわかりました。

須山たかしプロフィール



1980(昭和55)年11月6日生まれ(37歳)。府中市晴見町育ち・在住。明星幼稚園、桐朋小・中・高校、早稲田大学社会科学部卒業。早稲田大学大隈塾においてジャーナリスト高野孟に師事(1期生)。大学卒業後、民間特許事務所に3年半勤務。その後、政党本部スタッフ、参議院議員公設秘書など国政に従事。蓮舫(れんほう)参議院議員の秘書を経て、2011年府中市議会議員に初当選。2015年2期目再選。現在、基地等跡地対策特別委員会委員長 文教委員会委員 府中市民生委員推薦会委員 都市計画審議会委員 議会改革検討委員会委員 市民フォーラム所属

地域での主な活動

・公益社団法人むさし府中青年会議所会員・武蔵野府中ボーイズ名誉顧問
・けやき音楽祭2013JAZZinFUCHU実行委員長

TEL & FAX 042-307-8309 mail suyama1980@gmail.com

HP <http://suyamatakehi.jp/>

ご意見
お待ちしております!



「府中市議会議員 須山たかし」で検索

